

観光客は690万人 (前年とほぼ同数)

宿泊者数は150万人の大台を維持

昭和58年の観光統計まとまる



市は、昭和五十八年の一年間、日光を訪れた観光客数をまとめましたが、それによりますと、観光客の総数は六百九十万人で、対前年比〇・四% (千人) 減少しました。しかし、前年に統計史上初めて百五十万人を突破した宿泊客数は六千三百人増え、百五十二万九千人となり、大台を維持しました。

マイカー利用者が増える

交通機関別の入込客数

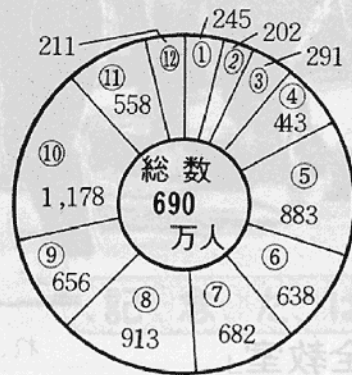
まず、観光客の入込状況を、利用交通機関別にみると、国鉄利用者が五十三万七千人 (前年比三万二千人減)、東武鉄道八十九万三千人 (同二万七千人減)、定期バス十四万八千人 (同二万九千人減) となつ

ています。これらは、昭和五十六年以降毎年減少していましたが、観光バスやマイカーなどの外来車による観光客は、五百三十二万二千人で八万七千人増えており、国鉄、東武、定期バスによる入込客数が減る中であつて、二年連続して増加を見せました。

月別では、十月が百七十七万八千人、八月が九十一万三千人、五月が八十八万三千人でこれがベストスリー。この三月で二百九十七万四千人と、総観光客数の四三・一%を占めています。次いで、七月の六十八万二千人、九月の六十五万六千人、六月の六十三万八千人の順になっています。

月別入込客数

(○は月 単位千人)



○利用交通機関別入込客数 (単位 千人)

国鉄	東武	定期バス	外来車 (観光バス・自家用車等)	
537	893	148	5,322	

霧降地域の増加が目立つ

地域別の宿泊者数

一方、前の年に統計史上初めて百五十万人 (百五十一万二千九百八十二人) を突破した宿泊者数は、前の年に比べ約六千三百人、〇・四%とわずかながら伸びを見せ、大台を維持しました。

これを地域別に見ますと、湯元地区が四十九万七千人、日光市街が四十二万二千人、中宮祠地区二十五万五千人、霧降地区十七万九千人、以下、菖蒲が浜・丸山、光徳・戦場

が原の順になっていますが、湯元、光徳・戦場が原を除いていずれも増えています。特に、霧降地区で一萬五千人増えたのが目立ち、これは、同地区には若い人たちに人気のあるペンションが多く (八軒) 年間を通して利用されているためと思われる。

月別の宿泊者は、八月二十七万四千人、七月二十一万一千人、十月二十万九千人で、この三月が二十万台。次いで